



・ Alfred Whitehead (ドレクセル大学物理学科大学院生)

"Simulating Star Clusters with AMUSE"

・ 牧野淳一郎 (国立天文台教授)

"GRAPE-DR と GRAPE-8 とその次"

・ 村主 崇行 (京都大学次世代研究者育成センター 特定助教)

"Paraiso project --- a code generator for partial differential equation solvers"

・ 似鳥 啓吾 (理化学研究所 基礎科学特別研究員)

"Dancing with NBODY6: The development of a GPU module for NBODY6"

・ 西澤誠也 (神戸大学/惑星科学研究センター 助教)

"Gfdnavi: A data analysis and visualisation tool for geophysical fluids"

ワークショップでは、Hut は現在牧野、Whitehead らと取り組んでいる、研究活動、ソフトウェア開発活動における通常は言語化されない知識を記録・伝達することを実際の自らの研究活動を題材に実験する試みについて発表した。また、Whitehead は、Leiden 大学のグループが進めている恒星系力学の研究のためのソフトウェアシステム開発プロジェクトである AMUSE について、開発グループの一員の立場から紹介した。その他、牧野は GRAPE-DR について、また西澤から CPS でのソフトウェアシステム開発について、似鳥から GPU の利用等について、村主から特に流体を対象にした偏微分方程式ソルバーのための DSL 開発について紹介があり、活発な議論があった。

滞在中には、主に衝突系(2 体緩和時間がシミュレーションタイムスパンより短いため、高精度積分が必要になる重力多体系)向けの新しい時間積分法についての議論を行ない、試験的な実装により実験を始めた。この実験は滞在期間中にはまだ完了していないが、現在も継続中であり今年(2011 年)中には最初の成果がでることを期待している。